

## 6mバンドの特徴と運用方法などについて

### 1 6m運用習慣の成り立ち 私見

6mバンドでは、グラウンドウエーブだけでなく突発的な異常伝搬によって平常時では聞こえない相手と交信ができることがあります。

国内であればいわゆるEsやEs1によるバックスキヤッタ(後方散乱)、スキヤッタ(散乱)、FAI(地磁気不均一性)、Ms(流星散乱)などの伝搬で全国が聞こえてきます。

異常伝搬が無さそうなときでも、弱い信号が浮かんでくることもあり未解明の伝搬もありそうです。

DX(6mでは国内交信はDXとは言いません)も私の設備でもカリブがロングパスで、ヨーロッパやアフリカが急にショートパスで入感しています。

ギリギリ聞こえるときもありますが強いときはS9振ってきますので驚きます。

このように何も聞こえないと思っていると、急に信号が浮かび上がることがあり、何時落ちるか分からないのが6mバンドの伝搬の特徴となっています。

他のバンドを主に運用している方から、6mは変な習慣があると思われることもあるようですが、「何時聞こえて、何時落ちるか分からない」伝搬特性に対応するため、6mに適した運用習慣ができてきたと考えています。

### 2 6mでの交信方法について

6mでは短時間で交信を成立させるため、コールサインを確認したらまず一番にレポートを交換します。

待っている多くの局に交信機会を譲ることが重要なので、ベテラン6mマンの交信を聞いていると、無駄なことは言っていないことが分かると思います。

特に開くのが短いMs伝搬ではSSB1交信3秒程度で次々と捌かれていきます。

無駄なことは言わないという習慣は通常の交信にも現れていて、たとえばQSLカードを発行することが実績から分かっている相手には何も言いませんし、不明の相手でも「カードはビューローで」程度で「島根」や「JARL」は言いません。

ビューローは1つしかないのですから。

名前の漢字解釈、相手にとって必要かどうかわからないアワード情報なども、求められない限り不要です。

本当に必要な情報だけに絞ることが異常伝搬時には重要です。

また、リストQSO（リスト取ってる間に多数QSOできるしリスト取ってる間に落ちるかも）、芋づるQSO（一局呼ぶと仲間が次々出てきて交信時間がかかる）、オペレータ交代（芋づるの同類、そもそも設備は共用免許？）など時間のかかる交信も同様に6m向きとは言えません。

一方のんびりラグチューができるのも6mです。

異常伝搬が無ければガラガラのラグチューバンドですから

「59 カードはビューロー さよなら」式の交信しかできないのも考えもので、初交信の局ともある程度会話ができる話題を仕込んでおくことも必要だと思っています。なかなか難しいのですが。

### 3 6mバンドでの周波数住み分けについて

DXが急に開けることからDXウインドウ（海外交信用の周波数帯）を空けておくという国際的な習慣あります。

DX向け周波数の上には国内遠距離の弱い信号を追いかける局が多く居ます。

この周波数付近での簡単な設備での高所移動や常置（設置）場所からの長時間送信は避けた方が良いでしょう。

50.100>	DX CWが出てくる
50.110	DX呼出周波数 DX交信用
50.150	国内遠距離交信がある 弱い信号に注意
50.180付近	一般交信
50.200付近	簡易な設備の移動局などはこの前後から上の周波数が無難 一般交信 ◆デジタルモード
50.300付近	一般交信 国内遠距離交信 ◆デジタルモード
50.500付近	主にAM(50.55/60/62中心)
50.700付近	
51.000	FM呼出周波数

このほか、自宅など移動しない局は50.190/50.195/50.200のように5kHzステップで運用する場合がありますが、以前のリグは6m以上のマルチバンド機が主だった影響でしょうか。当時2mや430MHz SSBでは5kHzステップは当たり前でした。移動局は50.243のように間を狙って混信を避ける構図でした。近頃はビートやノイズがあって5kHzステップが使えないことが多くなっていますが、多くの局が快適に運用できるよう、隣接局との間隔に留意したいところです。

#### ◆デジタルモードへの対応

最近では弱い信号で交信できるFT8やMSK144などデジタルモード運用が増えています。FT8、Q65などは耳では聞こえない程度の信号でも交信可能のため、近接周波数使用時や山岳移動などで意識せずに混信を与えてクレームを受けることがあるかもしれません。MSK144用の周波数では流星散乱などでガガーという雑音のような信号が突然聞こえる場合があります。

海外と共通の運用周波数が国内でも運用されていますので留意してください。  
(USBモードのキャリア周波数です)

50.260	MSK144	主にMs対応交信に使用 急にガガーという音が聞こえる
50.275	Q65	特に伝搬状態が厳しいときに使われるモード
50.280	MSK144	(ほとんど聞かない)
50.303	FT8など	主に国内 313混雑時に使われることが多い
50.313	FT8など	国内、海外 運用局多数
50.318	FT4	国内、海外 FT4の運用周波数
50.323	FT8など	大陸間交信専用

\* モード別に運用周波数が増えていく状況があります  
運用周波数の詳細はデジタルモード運用局のサイトなどを検索してください。

(c) JA1VZV 2020.05.25  
2023.02.20改定  
無改変・無償なら配布可  
リンク時は連絡の事